

ステントグラフト/MICS

血管内治療からハイブリッド手術も実現

ステントグラフト手術は、金属のバネであるステントと、人工血管のグラフトを組み合わせた器具を用いた、大動脈瘤や大動脈解離に対する手術法のひとつです。カテーテル操作によるこの手術は、近年では一般的な血管内治療となりましたが、当院では、日本で使用できるすべての種類のステントグラフトを使用できるため、患者さんに適した機種を選び、さまざまな治療が可能となっております。さらに、外科手術を組み合わせ、ハイブリッド手術などの選択もご提案することもできます。また、ステントグラフト同様、当院でも早い段階から導入しましたMICSも、体の負担が少ないため、術後の体力回復に不安をもつ、ご高齢の患者さんに適した心臓手術です。骨を切らずに、高画質の内視鏡を用いるため、傷が小さく出血も少ないということもMICSの大きなメリットです。昨年は、さまざまな疾患に対し32件の手術を施行いたしました。多くの患者さんを救う最先端の手術法は、最新の設備はもちろん高度な医療技術が必要となってきます。当院ではチーム医療として、一人ひとりが100%の実力を発揮できるよう、常に万全のコンディションで患者さんに向き合い、退院後の生活を見据えた治療法をご提供いたします。私たちに安心しておまかせいただければ幸いです。



心臓・血管外科 助教
手塚 雅博

「高齢だった祖母の大動脈瘤治療が、当時は大都市の専門病院でしかできなかったのを機に、地方病院でもステントグラフト手術を確立させたいと思い、現在に至ります。同僚や看護師とは食事会や趣味のゴルフを通じて、コミュニケーションを図るなど、円滑な人間関係を築いていけるのも、チーム医療を大切にしている当院ならではの魅力だと思います」



心臓・血管外科 准教授
齋藤 俊輔

「MICSは、さまざまな疾患に対応した低侵襲心臓手術です。医師として、自分の分野における知識や技術をアップデートしながら、患者さんに最新の治療をご提供することを、何よりの責務と認識しております。栃木暮らしは2年目。多忙な毎日ですが、休日は県内の観光地やレジャースポットに足を運び、家族時間を大いに満喫しています」



 獨協医科大学病院
Dokkyo Medical University Hospital

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880
TEL:0282-86-1111(代表)

 獨協医科大学病院ハートセンター
Dokkyo Medical University Hospital Heart Center

内科 TEL:0282-87-2191 内科予約専用 TEL:0282-87-2332
外科 TEL:0282-87-2206



DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る — vol.1

創刊号

救えるいのちを、
救うために



獨協医科大学病院ハートセンターで心臓・血管治療に向き合う7人の医師たち



重症心不全

患者さんに寄り添う最新の高度心臓治療

昨年の心不全による当院の入院患者数は、500人弱と、高齢化に伴い、その数は年々増加傾向にあります。心不全のなかでも、心臓の働きを助ける点滴や、機械的な補助が必要なほど命の危険が差し迫った状態であるのが重症心不全です。当院では、そんな重症心不全の患者さんに対し、内服や低侵襲治療をはじめ、心臓移植を待つ患者さんが安全に過ごすために、心臓の働きをサポートする植込み型補助人工心臓や、体外式補助人工心臓などの高度な医療技術を要する治療を、多職種チームで取り組んでおります。県内初の埋め込み型補助人工心臓実施施設である当院は、現在まで全国トップクラスの手術数を実現してまいりました。最新の循環補助装置のIMPELLAは、カテーテルタイプの補助人工心臓でありながらも、患者さんにとって負担の少ない治療となっております。私たちは、北関東地方の私立大学病院のひとつとして、患者さんが受けられる治療に、制限があってはならないと考えております。患者さんの症状をよくするのは、あくまで通過点。大切なのは、患者さんであるご本人とご家族、そして私たちが一丸となって、その先の人生を思い描ける治療を行うということです。患者さんの未来に寄り添う“心ある治療”を、私たちはお約束いたします。

心臓・血管内科/循環器内科 教授

豊田 茂

「現在、当院でいろいろな治療法ができるのは、最先端の術式を導入しているだけでなく、先代や先々代の努力があってこそものと思っております。患者さんの声に耳を傾け、共に歩む、包括的な治療を心掛けております。息抜きは、学会などで訪れる先々のおいしい料理やお酒をいただくこと。お寺や仏像も好きで全国制覇を目指しています」



心臓・血管外科 准教授

柴崎 郁子

「重症心不全の治療法である補助人工心臓の手術から、心臓血管外科専門医・修練責任者としての経験を生かし、メディカルの教育にも積極的に取り組んでおります。また、地域の先生と連携しながら、総合病院である当院ならではの多職種チーム治療で、多くの患者さんの命を救うことも目標です。落ち着いたら、ゆっくりと羽を伸ばしに海外へ行きたいです」



心臓・血管内科/循環器内科 助教

正和 泰斗

「日本で初のIMPELLA使用症例を担当、また当院独自のプロトコルの制作をいたしました。患者さんに適切な治療を行うために、常に今何が必要かを見極め、医師である自分ができることに、全力を注いでいきたいです。プライベートでは、愛犬と家族との時間を大切にしています。長男と生まれたばかりの次男の成長が楽しみです」



TAVI

患者さんを思い、開発されたカテーテル治療

TAVIとは、重症大動脈弁狭窄症に対して開発された新しい治療法です。ご高齢や症状などの理由により躊躇されがちな手術も、カテーテルを使い、患者さんの心臓に人工弁を留置することで、開胸することなく、また心臓を止めることなく、さらに人工心肺も使用しないという優れた低侵襲治療です。当院では外科・内科の合同チームが、県内で最初にTAVIを導入。現在まで100例以上、施行しました。患者さんが元気を維持できるよう、術後もしっかりとリハビリをサポートさせていただきます。地域の先生方とタッグを組み、患者さんのよりよい生活を共に考え、お守りできたらと思います。

心臓・血管内科/循環器内科 講師

那須野 尚久

「自分と縁のあった人は、みな幸せになってもらいたいという思いをもとに、患者さんの今とこれからの向き合った、最適な治療を、地域の先生方と一緒に考えていきたいと思っております。昨年、県内各所のキャンプ場に行くのが、新しい趣味となりました。県外出身の私としては、栃木の豊かな自然に、心も身体も癒されています」



MitraClip

県内で当院だけが施行できる最新低侵襲治療

カテーテルベースの新しい治療デバイスであるMitraClipは、先端のクリップをズレの生じた僧帽弁に挟み込むことで、逆流を軽減させる画期的な低侵襲治療です。この治療法は、施設基準の大変厳しいものですが、当院は県内唯一の認定施設として、2019年からこれまで多くの患者さんを治療してまいりました。地域の先生方が当院に、患者さんを安心してご紹介していただけるよう、多数精鋭を実現し、安全にかつ最大限の効力が得られる治療を、私たちは心掛けています。患者さんの些細な体調の変化や、疾患に対する疑問が生じた際は、どうぞ気兼ねなく、当院までご相談ください。

心臓・血管内科/循環器内科 准教授

金谷 智明

「医師歴20年。低侵襲治療はこれから発展していく治療だと思い、この道を選びました。患者さんにいい治療を提供するためにも、自分の知識や経験ばかりでなく、チーム医療として高い意識で対応させていただきます。休みの日は、ゴルフやギターでリフレッシュ。若い頃はロックバンドをしていたほど、音楽は今でも大好きです」

